

先々週の月曜日、ニホンオオカミの絶滅の話をしました。今日は予告通りこの「護符」のお話から始めます。

この護符に「武蔵野國」と書いてあります。武蔵野國というのは今の東京・埼玉・川崎・横浜あたりのこと。「御嶽山」というのは、登ったことがある人もいるのではないかしら、東京都青梅市にある「御岳山」みたけさんのこと。真ん中に書いてあるのが、みんなのご推察の通りニホンオオカミの絵です。このオオカミ、「大口真神」おおくちまがみ」という神様で、地元では「オイヌさま」と呼ばれています。西武池袋線の終点、埼玉県の秩父のあたりにもオオカミを神様とする神社がたくさんあります。西武線の宣伝に出て来る三峯神社が特に有名です。

オオカミを神の使いとしてあがめることが広まったのは江戸時代。肉食のニホンオオカミは、イノシシやシカ、サルといった、作物を荒らす動物を退治してくれる、農家の人たちにとつては頼もしい存在でした。それプラス、オオカミは、火を見ると吠えると言われていて、御岳山や三峰神社の護符を貼っておくと、田畑を荒らす動物除（よ）け、火災予防、おまけに泥棒除けにも効くというので、信仰は全国に広まったようです。今でもこの護符を貼っている家を見かけることがあります。オオカミを神とあがめる信仰は、今でも続いているようです。

ここで、おまけの話。妖怪「送り狼」の話で、送り狼が山道で人の後をヒタヒタとつけてきて、頭の上を飛び越したりする。その時尿をかける場合があり、それが目に入るとすごいにおいと刺激。目を開けられず、ガブツとやられてしまうという話をしました。実は、イノシシやシカ除けに、外国産のオオカミの尿を現在日本でも売っているのだそうです。オオカミの尿を容器に入れて、田畑を荒らす害獣の出そうなどところに置いておくと、動物が寄りつかないのだそうです。「天然素材!?!の害獣除け」という訳です。おまけにも一つ。江戸時代、「ネコのノミとり屋」という商売がありました。ザツと洗った猫を軽くふき、オオカミの毛皮でくるむ。するとあら、不思議。ノミはオオカミの毛皮に移るのだとか。この商売、かなり繁盛したようですが、オオカミの毛皮を使う秘密がバレると、一気に廃れてしまったのだとか。

話を本題に戻しましょう。ニホンオオカミが絶滅したのは、ジステンパーや狂犬病というウイルスによる病気が流行したことや、狂犬病のために狂暴化したオオカミを、人間が徹底的に駆除してしまったためだと言われています。

残念ながら「絶滅」には、人間が関わっていることが多いのです。動物の密猟や乱獲、森林伐採や地球温暖化、外来種の侵入。すべ

てに人間が関係しています。絶滅した動植物は二度と戻りません。君たちのよく知っているオオクワガタも絶滅危惧種なのです。



アメリカザリガニは、人間の食料となるウシガエルの餌としてアメリカから導入された外来種です。その外来種に押され、日本固有のニホンザリガニは今や絶滅危惧種です。このようなことが起こらぬよう政府は、二〇二三年の六月から、アカミミガメ（ミドリガメ）やアメリカザリガニを飼う事や捕ることは認めるが、販売や購入、野外への放出を禁止することを決定しました。ご存じでしたか？

ちなみに、川へアメリカザリガニを逃がしたりすると、今後、最大で三年以下の懲役または三百万円以下の罰金の可能性が！

二〇一九年、フィリピン沖に打ち上げられたクジラの死骸から、四十キロものプラスチック袋が出てきたそうです。海中でふわふわに似ているため、クジラが誤って食べてしまっている、消化できないので「満腹」だと勘違いし続けて、餓死したのだと考えられています。

ぼくたち人間のできることを、やらなくてはならない事って何でしょう。これを機会に考えてみてくれたら有難いです。

(立教小学校校長 田代 正行)